

2020年12月～2021年2月

2021年3月1日  
札幌管区气象台 気象防災部  
地球環境・海洋課

# 北海道地方 冬の天候

## 今冬の概況

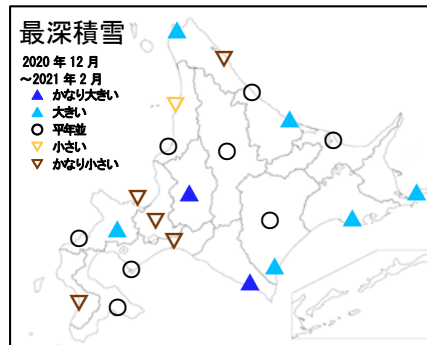
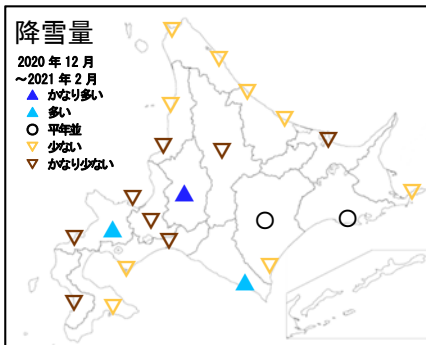
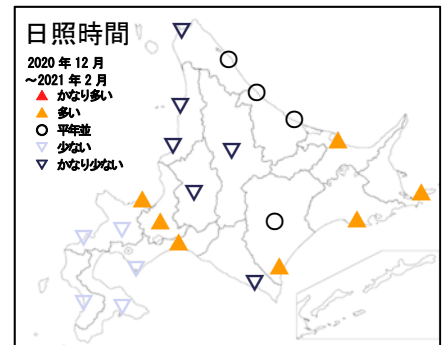
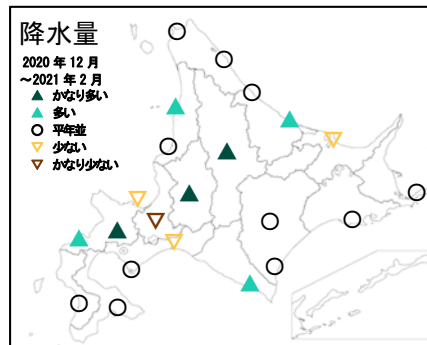
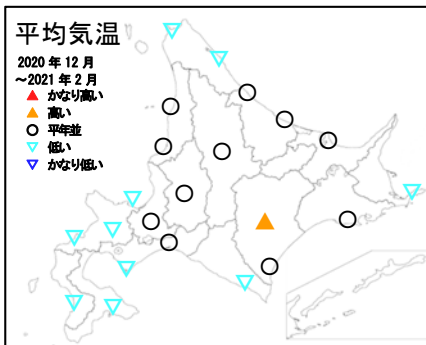
— 冬の前半は冬型の気圧配置が強く低温。後半は低気圧の影響で高温・多雨。 —

今冬の前半（12月上旬から1月中旬）は、極域から強い寒気が南下しやすい負の北極振動により、冬型の気圧配置が長続きしやすかったため、日本海側を中心に降雪量が多くなり、局地的に大雪となった所もあった。また、気温は平年より低い日が多く、特に1月上旬の北海道地方は1961年の統計開始以降、第3位の低温となった。一方、オホーツク海側と太平洋側は晴れの日が続き、太平洋側の12月の降水量は、1946年の統計開始以降、第1位の少雨となった。

後半（1月下旬から2月）は、寒気の南下が弱く、低気圧の影響を受けやすかった。特に2月中旬は、発達した低気圧の影響でまとまった雨が降り、各地で大雪や大荒れとなった日もあった。2月の気温は平年より高く、降水量は平年よりかなり多かった。特に2月中旬の気温と降水量は、1961年の統計開始以降、第1位の高温と第2位の多雨となった。

冬の降雪量は、北海道平均では平年より少なかったが、日本海側と太平洋側で平年より多い所もあった。岩見沢市5条の2月の最深積雪は205センチと1947年の統計開始以降、第2位の深さとなった。

## 階級分布図



## 季節の統計値(地域平均)

	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	-0.2	0	106	+	93	-	83	-
日本海側	-0.2	0	117	+	84	-	85	--
オホーツク海側	-0.2	0	104	0	100	0	76	--
太平洋側	-0.1	0	95	0	100	0	83	-

注) ・数値は、地域内の气象台等（日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点）の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。  
・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981～2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 月別の統計値（地域平均）

12月	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	-0.8	-	67	--	92	-	69	--
日本海側	-0.7	-	107	0	69	--	95	0
オホーツク海側	-1.1	-	54	--	111	+	67	-
太平洋側	-0.6	-	24	--	112	++	36	--

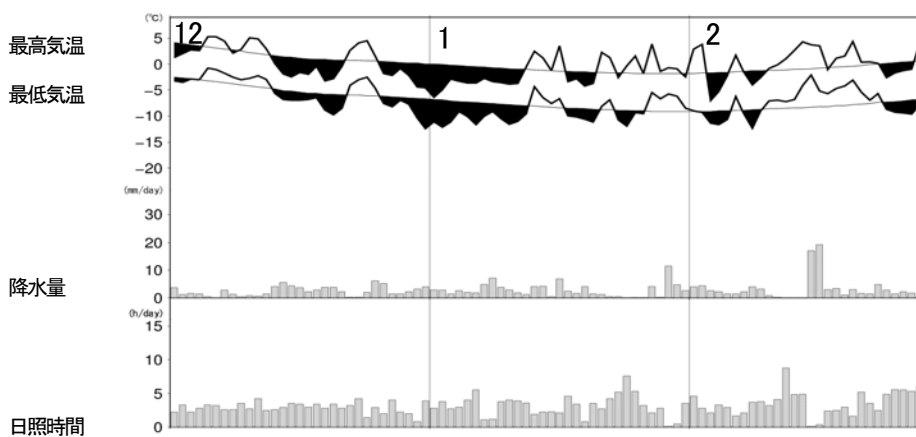
1月	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	-0.8	-	114	+	102	0	101	0
日本海側	-0.8	-	100	0	109	+	79	-
オホーツク海側	-1.1	-	123	+	107	+	93	0
太平洋側	-0.7	0	127	+	93	-	133	+

2月	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+1.0	+	165	++	85	-	70	-
日本海側	+0.8	+	159	++	77	-	81	-
オホーツク海側	+1.5	+	165	+	86	-	68	--
太平洋側	+0.9	+	173	+	95	0	57	-

注)・数値は、地域内の气象台等（日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点）の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981～2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 気象経過図



冬（12～2月）の日々の気象経過（北海道地方）

### 【気温】

今冬は、12月中旬から1月中旬にかけて強い寒気が流入し平年より低い日が多かったが、2月中旬は南からの暖気の流入により、平年よりかなり高くなった。冬の平均気温は平年差-0.2°Cと平年並となった。

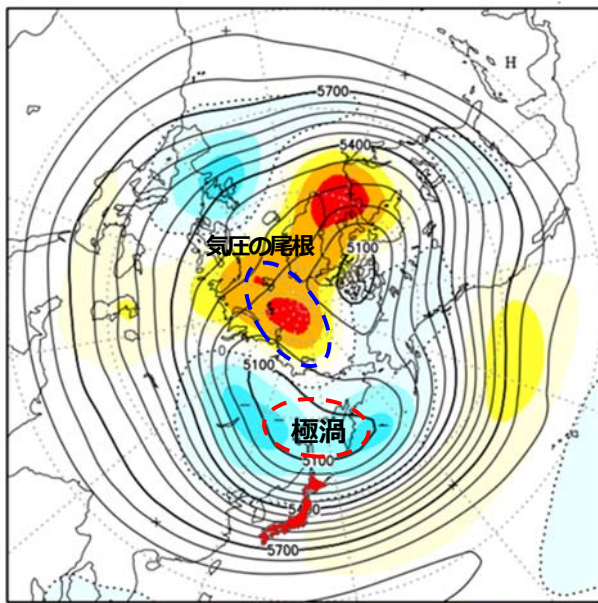
### 【降水量】

12月から1月中旬にかけては、冬型の気圧配置となる日が多かったが、1月下旬から2月にかけては、低気圧の影響を受ける日が多かった。このため、12月の月降水量は、太平洋側を中心に平年よりかなり少なかった。2月の月降水量は、平年よりかなり多く、特に2月中旬は記録的に多かった。冬の降水量の平年比は106%と多かった。

### 【日照時間】

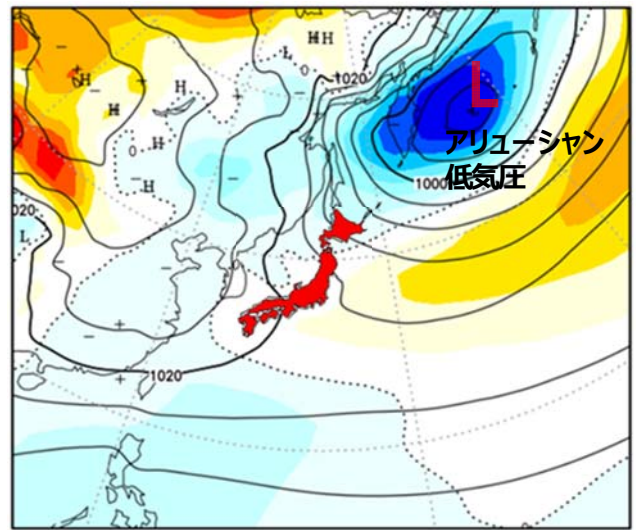
今冬は、12月から1月中旬にかけて冬型の気圧配置が続き、1月下旬から2月にかけては低気圧の影響を受けやすかったため、冬の日照時間の平年比は93%と少なかった。

## 冬の大気の流れと地上天気図の特徴



北半球の3か月平均500hPa高度と年間偏差  
(平年値は1981～2010年の平均値)

実線は500hPa高度(m)、着色は年間偏差(m)。年間偏差が暖(寒)色の領域は平年より高度が高(低)く、一般に暖(寒)気に覆われやすい。上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている所で偏西風が蛇行しており、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強い。



日本付近の3か月月平均海面気圧と年間偏差  
(平年値は1981～2010年の平均値)

実線は等圧線(hPa)、着色は年間偏差(hPa)。年間偏差の暖(寒)色は、平年より気圧が高(低)い領域。寒色の領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

### 500hPa (上空約5500m) 天気図

北極付近が気圧の尾根となっており、寒冷渦(極渦)がオホーツク海に偏在しやすかった(負の北極振動)。一方、日本の東海上では高度が高かった。このため、北海道付近は寒冷渦(極渦)周辺の強い寒気が流れ込みやすかったが、南から暖かい空気が入る時期もあった。

### 地上天気図

シベリア高気圧の中心付近では、気圧が平年より高く、アリューシャン低気圧は平年より強かったため、冬型の気圧配置が強かった。北海道付近は平年より気圧が低く、低気圧の影響を受けやすい時期があった。



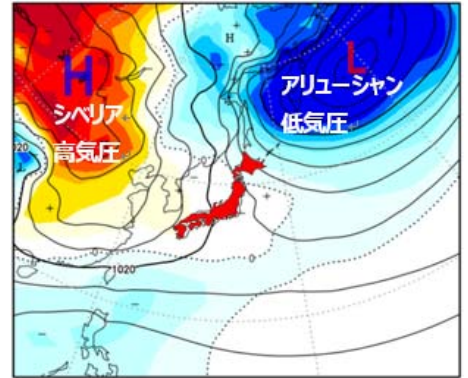
# 月毎の気象

## (1) 12月

—— 冬型の気圧配置の影響が続き、日本海側は局地的に大雪、太平洋側は記録的少雪 ——

**気象経過：**12月上旬は冬型の気圧配置の影響で、日本海側を中心に雪の降った日が多く、1日は空知地方で局地的に大雪となった所があった。中旬以降は、冬型の気圧配置が続き、断続的に強い寒気が流れ込んだ影響で日本海側では局地的に降雪量が多くなった。31日は強い寒気が流れ込み、上川地方を中心に最低気温が氷点下30度を下回り、道内の各地で12月としての最低気温の極値を更新した。また、太平洋側では月を通して晴れた日が多く、月降水量の少ない方からの極値を更新した所があった。

**地上天気図：**シベリア高気圧が平年より強く、アリューシャン低気圧も平年より勢力が強かったため、北海道付近の冬型の気圧配置は平年より強かった。



12月の地上天気図

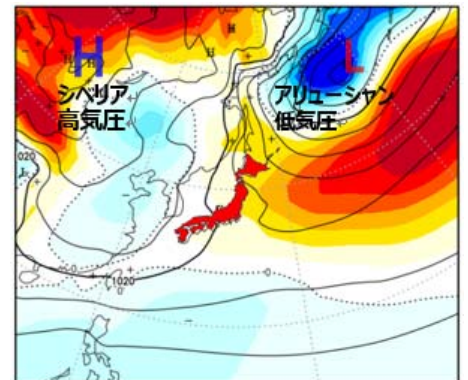
図の見方は冬の地上天気図に同じ

## (2) 1月

—— 寒気の影響を受けやすく8年ぶりの低温、特に中旬は歴代3位の低温 ——

**気象経過：**1月上旬は冬型の気圧配置が続き、日本海側では雪の降った日が多く、オホーツク海側南部や太平洋側では晴れた日が多かった。8日は発達した低気圧の影響でオホーツク海側と太平洋側で大雪となった所があった。また、強い寒気が流れ込んだため、中旬の北海道地方の平均気温は1961年の統計開始以降、歴代3位の低温となった。中旬は高気圧の張り出しの中で晴れた日もあったが、低気圧や冬型の気圧配置の影響により雪の降った日が多かった。下旬は旬の中頃までは高気圧の張り出しの中で晴れた日が多かったが、旬の終わりは低気圧の影響で全道的に雪が降り、29日は大雪や大荒れの天気となった所があった。

**地上天気図：**上旬は、大陸ではシベリア高気圧が平年より強く、アリューシャン低気圧も平年より強かったため、冬型の気圧配置は平年より強かった。中旬以降は、冬型の気圧配置が長続きせず、北海道付近は低気圧の影響を受ける時期もあった。



1月の地上天気図

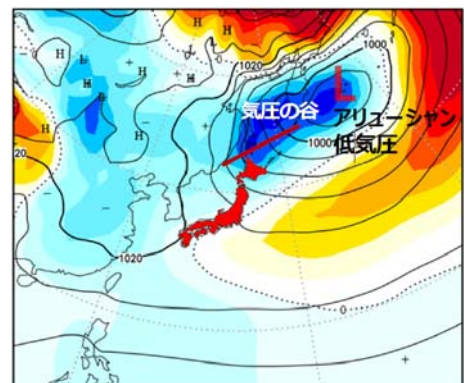
図の見方は冬の地上天気図に同じ

## (3) 2月

—— 低気圧の影響を受けやすく多雨・寡照、中旬は記録的高温。日本海側では大雪の所も。 ——

**気象経過：**2月上旬は冬型の気圧配置や低気圧の影響で曇りや雪の日が多かった。中旬は低気圧の影響で曇りや雪または雨の降った日が多く、特に16日から17日にかけては発達した低気圧の影響により各地で大雪や大荒れの天気となった。また、南から暖かい空気が流れ込んだため、中旬の平均気温は1961年の統計開始以降、歴代1位の高温となった。下旬は冬型の気圧配置の影響で、太平洋側とオホーツク海側では晴れた日が多く、日本海側では曇りや雪の日が多かった。24日は石狩地方と空知地方で局地的に大雪となった。

**地上天気図：**上旬と下旬は、アリューシャン低気圧が平年より強く、北海道付近に寒気が流れ込みやすかった。中旬は、オホーツク海から沿海州にかけて気圧の谷 (茶色実線) となっており、北海道付近は低気圧の影響を受けやすかった。



2月の地上天気図

図の見方は冬の地上天気図に同じ

## 季節の統計値（地点別）

官署名	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 ℃	平年差 ℃	階級	本年 mm	平年比 %	階級	本年 h	平年比 %	階級
稚内	-4.2	-0.4	-	281.5	108	0	104.3	67	--
北見枝幸	-5.3	-0.3	-	230.0	94	0	260.1	100	0
羽幌	-3.5	+0.1	0	408.5	124	+	112.1	64	--
雄武	-5.6	-0.2	0	155.0	115	0	298.5	97	0
留萌	-3.3	0.0	0	307.0	106	0	104.3	67	--
旭川	-5.9	+0.2	0	308.5	141	++	198.3	83	--
網走	-4.8	-0.2	0	115.0	77	-	389.2	106	+
小樽	-3.0	-0.6	-	309.0	79	-	222.3	107	+
札幌	-2.7	-0.2	0	195.5	61	--	318.9	113	+
岩見沢	-4.4	0.0	0	627.5	196	++	213.0	76	--
帯広	-5.2	+0.6	+	103.0	92	0	548.3	101	0
釧路	-4.1	-0.1	0	123.5	108	0	571.3	106	+
根室	-3.2	-0.4	-	78.5	75	0	522.5	113	+
寿都	-2.2	-0.7	-	385.5	125	+	95.4	90	-
室蘭	-1.5	-0.4	-	132.0	81	0	254.1	89	-
苫小牧	-2.9	-0.1	0	93.0	74	-	441.5	108	+
浦河	-2.0	-0.4	-	149.5	133	+	347.6	84	--
江差	-0.4	-0.5	-	218.0	89	0	114.3	90	-
函館	-2.2	-0.6	-	224.0	101	0	288.7	91	-
倶知安	-5.1	-0.4	-	704.5	138	++	130.1	83	-
紋別	-4.8	-0.1	0	167.0	130	+	308.3	97	0
広尾	-3.1	+0.3	0	197.5	94	0	491.7	105	+

注) ・階級の++は平年よりかなり高い(多い、大きい)、+は平年より高い(多い、大きい)、0は平年並、-は平年より低い(少ない、小さい)、--は平年よりかなり低い(少ない、小さい)を示す。

・「」付きの値は欠測を含む。「」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

## 季節統計値の順位値更新一覧（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
12月	降雪の深さ月合計値(多い)	第3位	岩見沢	382 cm	191 %	453 cm (2002)	1953
	月降水量(多い)	第1位	岩見沢	299.0 mm	242 %	241.0 mm (2011)	1946
	月降水量(少ない)	第1位	札幌	26.5 mm	24 %	35.2 mm (1934)	1876
			帯広	0.0 mm	0 %	5.3 mm (1934)	1892
			釧路	0.5 mm	1 %	4.5 mm (1983)	1910
			苫小牧	1.0 mm	2 %	15.8 mm (1966)	1942
			広尾	8.0 mm	9 %	17.5 mm (1984)	1958
			北見枝幸	59.0 mm	55 %	58.4 mm (1951)	1942
	月間日照時間(多い)	第1位	釧路	214.9 h	124 %	207.1 h (2002)	1910
			根室	188.6 h	129 %	186.2 h (2001)	1890
月間日照時間(少ない)	第2位	北見枝幸	100.8 h	137 %	104.6 h (2002)	1942	
		苫小牧	158.3 h	125 %	160.2 h (1970)	1942	
		帯広	202.8 h	118 %	218.3 h (2002)	1900	
月最深積雪(大きい)	第1位	岩見沢	142 cm	203 %	129 cm (2011)	1946	
		岩見沢	142 cm	203 %	129 cm (2011)	1946	
1月	降雪の深さ月合計値(多い)	第1位	浦河	100 cm	208 %	98 cm (1969)	1953
	月間日照時間(多い)	第2位	小樽	95.4 h	144 %	104.9 h (1984)	1943
	月最深積雪(大きい)	第2位	岩見沢	169 cm	167 %	194 cm (2012)	1947
2月	月降水量(多い)	第2位	羽幌	157.0 mm	196 %	170.4 mm (1952)	1921

			岩見沢	190.5 mm	230 %	195.0 mm (1965)	1947
	月最深積雪(大きい)	第2位	岩見沢	205 cm	172 %	208 cm (2012)	1947
12-2月	冬の降水量(多い)	第1位	岩見沢	627.5 mm	196 %	579.5 mm (2012)	1947
	冬の降雪量(多い)	第2位	浦河	159 cm	135 %	168 cm (2013)	1954

## 今冬の降雪量と最深積雪 (地点別)

	降雪量												冬最深積雪						
	12月				1月				2月				冬合計				本年		
	本年	平年値	平年比	階級	本年	平年値	平年比	階級	本年	平年値	平年比	階級	本年	平年値	平年比	階級	本年	平年値	階級
cm	cm	%		cm	cm	%		cm	cm	%		cm	cm	%		cm	cm		
稚内	91	160	57	--	199)	173	115	+	124	143	87	-	414	478	87	-	104]	78	+
北見枝幸	129	161	80	-	152	166	92	-	104)	125	83	-	385	455	85	-	72	103	--
羽幌	181	172	105	0	150	198	76	-	114	150	76	-	445	519	86	-	89	101	-
雄武	65	113	58	-	121)	124	98	0	64	95	67	-	250	335	75	-	74	67	0
留萌	191	170	112	0	142	197	72	-	93)	156	60	--	426	523	81	--	80	86	0
旭川	199	189	105	+	110	174	63	--	121	131	92	0	430	497	87	--	85	91	0
網走	57	85	67	-	90	105	86	0	51	81	63	--	198	271	73	--	48	55	0
小樽	114	156	73	-	111	194	57	--	110	156	71	-	335	507	66	--	81	120	--
札幌	50	132	38	--	137	173	79	-	75	147	51	--	262	456	57	--	61	99	--
岩見沢	382	200	191	++	211	207	102	0	227	160	142	++	820	570	144	++	205	122	++
帯広	--	47	0	--	115	59	195	++	12	37	32	--	127	141	90	0	60	62	0
釧路	1	27	4	--	81	44	184	++	24	34	71	0	106	104	102	0	45	33	+
根室	22	36	61	-	83	62	134	+	18	55	33	--	123	152	81	-	41	29	+
寿都	97	121	80	-	148	169	88	-	100	134	75	-	345	426	81	--	80	73	0
室蘭	14	38	37	--	58	65	89	0	26	56	46	--	98	159	62	-	24	25	0
苫小牧	1	27	4	--	24	39	62	-	14	39	36	-	39	104	38	--	13	28	--
浦河	19	32	59	0	100	48	208	++	40	37	108	0	159	118	135	+	34	21	++
江差	49	71	69	-	58	113	51	--	37	88	42	--	144	273	53	--	15	31	--
函館	84	86	98	0	83	118	70	-	94	90	104	0	261	293	89	-	44	43	0
倶知安	303	252	120	+	249	291	86	-	247	226	109	+	799	770	104	+	211	187	+
紋別	63	104	61	--	120	128	94	0	59	102	58	--	242	334	72	-	63	56	+
広尾	21	75	28	--	154	123	125	+	23	94	24	--	198	290	68	-	100	85	+

- 注) ・平年値は1981～2010年の30年間の平均値です。  
・階級の++は平年よりかなり高い(多い、大きい)、+は平年より高い(多い、大きい)、0は平年並、-は平年より低い(少ない、小さい)、--は平年よりかなり低い(少ない、小さい)を示す。  
・「 ) 」付きの値は欠測を含む。「 ] 」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。  
・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981～2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 真冬日の日数（地点別）

	12月		1月		2月		冬合計	
	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差
稚内	18	+2.8	26	+2.2	16	-6.1	60	-1.2
北見枝幸	17	-0.2	25	-0.2	20	-2.8	62	-3.3
羽幌	15	+3.0	22	+0.5	13	-5.1	50	-1.7
雄武	16	0.0	25	0.0	19	-3.0	60	-3.2
留萌	13	+2.1	24	+3.2	11	-6.4	48	-1.1
旭川	19	0.0	27	+1.4	15	-5.4	61	-4.3
網走	17	+3.0	25	+0.7	18	-4.1	60	-0.5
小樽	14	+3.6	21	+2.7	12	-3.0	47	+3.2
札幌	12	+3.0	21	+3.6	10	-4.0	43	+2.6
岩見沢	18	+3.0	24	+1.2	15	-3.4	57	+0.6
帯広	11	-1.1	25	+2.5	11	-5.8	47	-4.6
釧路	10	+3.1	23	+5.2	13	-2.0	46	+6.3
根室	14	+5.3	25	+5.3	16	-3.8	55	+6.8
寿都	13	+4.5	17	+1.1	13	-0.7	43	+5.1
室蘭	11	+4.6	18	+3.9	9	-3.2	38	+5.3
苫小牧	11	+4.5	18	+3.6	9	-2.2	38	+6.0
浦河	11	+6.0	18	+6.1	9	-0.8	38	+11.4
江差	8	+4.2	14	+4.3	6	-2.1	28	+6.4
函館	13	+6.9	16	+3.7	9	+0.1	38	+10.8
倶知安	19	+3.6	21	-2.2	16	-2.5	56	-1.2
紋別	16	+0.9	25	+0.4	18	-3.6	59	-2.3
広尾	10	+2.2	24	+6.0	12	-4.6	46	+3.5

注) 真冬日の日数は、最高気温が0℃未満の日数を示す。

## 今冬に発表した天候に関わる気象情報※

なし

※ ここでの「気象情報」は、平年から大きくかけ離れた気象状況が数日間以上続き、社会的に大きな影響が予想されるときなどに発表する情報を指します。

※データは速報値であり、後日変更される場合があります。

お問い合わせ先

札幌管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課  
TEL (011) 611-6174